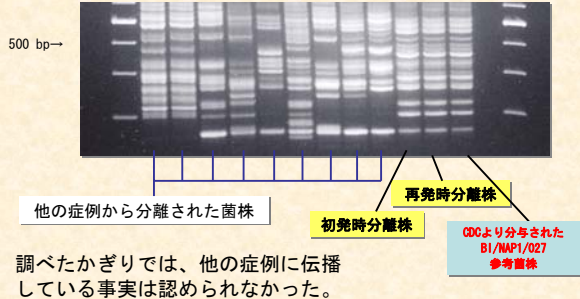


本症例と同じ病院に入院していた*C. difficile*関連下痢症例から分離された菌株と北米流行BI/NAP1/027株のPCR ribotype pattern



調べたかぎりでは、他の症例に伝播している事実は認められなかった。

18

### 国内症例2：31歳 男性

入院歴なし

2001年

4月上旬 耳鼻咽喉科外来で急性咽喉炎と診断され、CFPN-P1内服 (X4日)。

5月上旬 水様下痢がはじまり、急性感冒と診断され、FOM内服 (X4日)。

5月22日、23日には下痢に加えて、血便が認められた。

6月6日 下痢症状が持続するため内科検査入院。

6月7日 細菌学的検査：糞便検体中toxin A陽性、

*C. difficile*培養陽性 (A+B\*CDT\*)

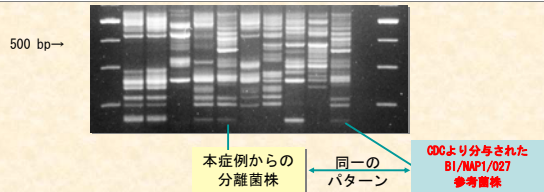
内視鏡検査：低い隆起性アフタ散在

好中球浸潤感染性所見

抗菌薬関連下痢症と診断された。バンコマイシン等の抗菌薬は処方されず、プロバイオティクス等による治療により1週間で症状は回復した。

19

本症例と同じ病院に入院していた*C. difficile*関連下痢症例から分離された菌株と北米流行BI/NAP1/027株のPCR ribotype pattern



1. 本症例からの分離菌株はNAP1/027株と同定された。
2. 北米流行株とは異なり、ガチフロキサシン、モキシフロキサシンに感性であった。
3. 本症例は市中感染症と考えられた。
4. 本症例の入院後、他の入院症例に伝播した事実は認められなかった。

20

### 市中感染症としてのCDAD

英国 General Practice Research Database (GPRD) を基にしたCDAD市中感染と制酸剤 (proton pump inhibitorおよびH<sub>2</sub> receptor antagonist) との関連についての報告 (Dial S, et al. 2005. JAMA 294:2989-95.)

1. 外来症例においてCDAD症例が増加  
1994年：1症例/10万外来症例 → 2004年：22症例/10万外来症例
2. 1994年から2004年にかけて、全体で抗菌薬処方は減少しているが、proton pump inhibitorsの処方は増加

カナダにおけるPCR ribotype 027株の解析についての報告

(MacCannell DR, et al. 2006. J Clin Microbiol. 44(6):2147-52.)

アルベルタ (カルガリー) では、市中感染例からの分離株373株のうち62株 (16.6%) が、PCR ribotype 027株であり、市中感染症例は平均年齢が院内感染症例より若かった。

入院症例以外でもCDAD、NAP1/027感染を疑う必要がある。

21

### 感染予防対策

1. *C. difficile*を獲得し感染症を発症する**宿主側のリスク**を軽減
2. *C. difficile*の**感染経路**を遮断

NAP1/027菌株による院内感染に対する対策と、NAP1/027菌株以外の流行株による院内感染に対する対策は、基本的に同じである。

22

その前に!

院内感染予防対策を考える前に  
正しく臨床診断、検査がなされているか  
確認してみてください

1. あなたの病院では、CDADに関する認識と理解が不足しているために、臨床診断がなされず見過ごされている症例が多くありませんか?
2. あなたの病院では、*C. difficile*が院内感染の原因となることを知らない医療スタッフが多くありませんか?
3. あなたの病院では、細菌学的検査のための臨床検体が適切に採取され、検査依頼が適切にされていますか?
  1. どのように検体を採取して、どんな輸送容器を使用するのか決まっていますか? 医師や看護師は知っていますか?
  2. バンコマイシン等の抗菌薬内服がはじまってから検体採取していますか?
4. あなたの病院の検査室では、CDADの細菌学的検査としてどのような検査を行っていますか? あるいは、どのような検査を行っているのか (行うことができるのか)、医師や看護師は知っていますか?

<http://www.nih.go.jp/niid/bac2/C.difficile/>

23